

令和4年6月4日

令和3年度 学校関係者評価委員会 報告書

学校法人平成医療学園
平成医療学園専門学校

自己点検・評価結果に基づき、学校関係者評価を実施いたしましたので、以下の通りご報告いたします。

1. 学校関係者評価委員（企業等委員）出席者

齊藤 真吾 （明治国際医療大学 准教授）
並川 一利 （なみかわ はり・きゅう院 院長）

2. 事務局 出席者

北野 吉廣 （平成医療学園専門学校 校長）
中谷 裕之 （平成医療学園専門学校 統括長）
高木 保子 （平成医療学園専門学校 統括長補佐）
竹本 晋史 （平成医療学園専門学校 教務部長）
土岐 明寛 （平成医療学園専門学校 柔道整復師科学科長）
上野 暁生 （平成医療学園専門学校 鍼灸師科学科長）
内野 容子 （平成医療学園専門学校 東洋療法教員養成学科学科長）
藤本 正治 （平成医療学園専門学校 事務次長）

3. 開催日時および場所

- (1) 開催日時：2022年6月4日（土） 15：00～16：00
- (2) 開催場所：平成医療学園専門学校 第1校舎4階

4. 議事次第

- (1) 校長挨拶
- (2) 学校自己点検・評価報告書と委員評価の確認
- (3) 総括（委員評価を基に今後、具体的に実施する活動や検証が必要な取組の整理等）
- (4) 次回開催日程について

5. 議事報告

■ 令和3年度における重点目標について

- 定員充足に向け、更なる学校認知度向上の為の募集活動
- 国家試験合格率向上の為の取組（チューター制の実施、低学力者へのフォローアップ等）
- 就職及び進学決定率100%を実現する為の支援体制（就職活動等の状況に関するアンケート実施、企業説明会の開催等）
- 施設設備の整備（校舎修繕計画等）

■ 各評価項目について

項目	評価・意見
基準1 教育理念等	<p>[評価委員意見]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● まずは学校の認知度を高める必要があると考えるが、Google 検索で、例えば「大阪・鍼灸・専門学校」と検索しても検索の上位に学校のホームページが表示されなかった。 <p>[回答]</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 昨年度途中までリスティング広告を上手く活用できていなかったため、改善した。注力するリスティングキーワードについては月毎に変えている。 ➢ 今年度は、8・9月までに入学定員の8割充足が目標。現在4名の広報担当職員が在籍しており、個別の担当エリアを決定して、それに基づいた広報活動を展開している。尚、5月までの学生募集活動の進捗は順調である。 <p>[その他意見]</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 大学では、受験者の早期（8月まで）確保に注力している。進学先を大学か専門学校で迷っている人へのアプローチは、この時期が特に重要。
基準2 学校運営	<p>[評価委員意見]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 運営組織や意思決定システムが有効に機能しているかどうかという点は、報告書のみでは判断がしづらい。 <p>[回答]</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 令和3年度においては、当校の価値を測定するため、外部業者による卒業生調査（柔道整復師科並びに鍼灸師科の卒業年次生のみ）を実施した。総合評価については、専門学校の好適評価の平均は50%であるのに対し、当校は約80%の高評価であった。専門学校の場合、入学時点で目標が明確であり、且つ総合評価は高い傾向にあるが、当校はその平均評価よりも更に高かった。 <p>「学校を辞めたいと思ったことがある」という設問について、「そうである」と回答した学生が5割近くいたが、それでもそのような学生が途中で退学することなく無事に卒業できたのは、修学へのモチベーションを教職員が上手く整えることができた結果であると分析する。</p>

項目	評価・意見
	<p>➤ 教育面については、組織運営が意思決定した内容を、教職員から学生へ、いかに上手く落とし込んでいるかが鍵となる。しかしながら、学生の考え方やニーズは時代と共に変化しており、教職員にも更なる変化が必要であると感じている。</p> <p>[その他意見]</p> <p>➤ 卒業生調査において、学科ごとに確認出来るものがあれば尚良い。</p>
<p>基準3 教育活動</p>	<p>[評価委員意見]</p> <p>● 外部企業や業界団体との連携方法は、各学科で異なるため、一括りには評価しづらい。</p> <p>[回答]</p> <p>➤ 新型コロナウイルス感染症の影響により、実習活動の実施には制限があったが、各科の取組状況を報告する。</p> <p>(柔道整復師科)</p> <p>当学科の学生は、感染症流行前より、スポーツトレーナーを目標とした学生が非常に多い。しかしながらこの2年間、学生の要望に応えられるような活動が満足に出来ていなかった。そのような状況の中でも、堺サッカー実習については、例年と異なる開催形式ではあったが実施することができた。また、全柔協による保険講習も開催した。</p> <p>教員の研修については、接骨医学会やその他学会の研修にも参加しているが、参加回数は多くなく、学会における発表も昨年度に初めて行えた状況である。教員の研修で得たものを学生への教育に活かしていきたい。</p> <p>(鍼灸師科)</p> <p>外部治療院での見学実習を行った。また柔道整復師科と同様、堺サッカー実習の実施や、全柔協の保険講習も開催した。</p> <p>外部治療院での見学実習が、学生自身の将来像のイメージを明確にすることに繋がっている。</p> <p>教員の研修については、全日本鍼灸学会の学会へ参加した。この学会については、年度によっては卒業年次生から発表者を募ることもある。今後も引き続き、同グループ校の宝塚医療大学とも連携を取りながら、学会発表を行いたい。</p> <p>(東洋療法教員養成学科)</p> <p>当学科の学生は2年次に論文を提出し、その発表を行っている。今後は同グループ校や競合他校とも連携を取り、学生間の交流を図りながら、論文や研究発表を行っていこうと考えている。</p> <p>➤ 甲南大学ラグビー部や帝塚山大学女子サッカー部など、他大学の部活にて当校の教員がトレーナー活動を行っており、当校の学生や卒業生も同行している。このトレーナー活動は、学生や卒業生の人脈づくりにもなっている。</p>

項目	評価・意見
	<p>[その他意見]</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 明治国際医療大学では、アスリートセンターという組織があり、その組織が運動部へサポートを行っている。当校と宝塚医療大学で協力してできることがあればいいと思う。 ➤ 学会への参加について、学生の申し込みはあったのだろうか。新型コロナウイルス感染症の流行により、学内での学術大会も通常開催出来ておらず、研究発表に対する意識が薄れているように感じる。Web 視聴可能な学会については、学生も視聴できるよう案内してはどうか。 <p>[回答]</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 宝塚医療大学の野球部に当校のトレーナーを派遣することを検討している。 ➤ 学会への参加については、まずは教員が積極的に参加出来る体制を整えたいと考える。
<p>基準 4 学修成果</p>	<p>[評価委員意見]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 就職率・資格取得率ともに高い。今後も、引き続き資格取得率の高水準を維持されることを期待する。
<p>基準 5 学生支援</p>	<p>[評価委員意見]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 心の相談、カウンセリングなどの学生サポートがあれば良いと感じる。 <p>[回答]</p> <p>同グループ校である名古屋平成看護医療専門学校では、すでにスクールカウンセリングを取り入れており、当校についても前向きに検討したい。</p> <p>また、在学中のみに限らず、入学前講座等で個人分析を行うのも良いと考える。カウンセリングについては、WEB 相談にも対応できるようにしても良いと考えている。</p> <p>[その他意見]</p> <p>明治国際医療大学でも、スクールカウンセリングを取り入れている。最近感じるのは、大小関係なく、悩みを抱えている学生が非常に多いということである。1年生は退学率が高まりやすい為、本支援はより重要であると考えている。</p>
<p>基準 6 教育環境</p>	<p>[評価委員意見]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 大阪大学での解剖見学実習は貴重な機会である。 <p>[回答]</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 新型コロナウイルス感染症の影響により、実習先の大阪大学が、ここ 2 年程、実習の受け入れを行っていない。海外研修も新型コロナウイルス感染症の影響によりできていない。社会情勢が落ち着くことを願うばかりである。
<p>基準 7 学生の募集と 受入れ</p>	<p>[評価委員意見]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● オープンキャンパス等、募集活動が充実している。

項目	評価・意見
基準 8 財 務	<p>[評価委員意見]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 監査や財務状況の情報公開がされている為、財務・収支は安定していると思うが、報告書の内容だけでは判断しづらい。 <p>[回答]</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 令和 3 年度については、新型コロナウイルス感染症の影響により、外国人留学生の新入生が全く入国出来なかった。その為、予算の見直しを行い、支出の削減に努めた。尚、財務諸表については本学ホームページに公開しており、詳細についてはそちらを参照いただきたい。 ➤ 令和 4 年度については外国人留学生の入国が再開しており、150 名弱の外国人留学生が入学する見込である。秋期も 30 名弱が入学する見込である。
基準 9 法令等の順守	<p>[評価委員意見]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 法令順守は勿論のこと、保険加入もされており、リスクマネジメントもしっかりしている。
基準 10 社会貢献	<p>[評価委員意見]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新型コロナウイルス感染症の影響もあり、現状、難しいかもしれないが、地域住民に対する公開講座などの地域貢献を期待している。 <p>[回答]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新型コロナウイルス感染症の流行前は、学園祭で地域の方々との交流があったが、昨年度は学園祭の開催が出来なかった。 各科における現状の活動を報告する。 <p>(柔道整復師科)</p> <p>以前は地域の公民館で多種多様な講座を行っていた。現在は制限もあり、地域交流の間口は附属鍼灸接骨院のみとなる。</p> <p>(鍼灸師科)</p> <p>柔道整復師科と同様である。</p> <p>(東洋療法教員養成学科)</p> <p>当学科の学生は資格取得済みであり、附属鍼灸接骨院で臨床実習を行っている。地域の方々との交流や、またより良い臨床実習のため、附属鍼灸接骨院をより多くの方々に利用してもらいたいと考えている。</p> <p>[その他意見]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 近隣の学校へ附属鍼灸接骨院の周知を行うと良いと考える。

6. 総括

学校関係者評価を通して、学校運営を様々な視点から検証ならびに評価することが出来た。
下記、各基準評価項目におけるの整理事項である。

- 基準1（教育理念等）
学外への周知において、特に学校ホームページについては、更に改善・検討の余地がある。
リスティング広告やSEO対策も適切に行い、更なる学校認知度向上に努める。
- 基準2（学校運営）
昨年度実施した卒業生調査については、当校初めての試みであった。今後、同様の調査を行った場合は、調査結果の内容を自己点検・評価報告書に記すことや、別紙による共有などを検討する。
- 基準3（教育活動）
当校の母体でもある「全国柔整鍼灸協同組合」との繋がりをより強化する為に、今後もタイアップを続けていきたいと考える。また、教員研修の観点からも各種学会への参加を今以上に増やすため、体制を整えて、教員から学生へそこで得た知識のフィードバックを行いたい。
- 基準5（学生支援）
学生支援のひとつとして、スクールカウンセリングの導入を検討したい。また、全学生における個人面談についても定期的に行うことで、退学防止に繋げたい。
- 基準6（教育環境）
大阪大学での解剖見学実習が再開、維持できるよう尽力する。
- 基準10（社会貢献）
ここ2年程は活動が出来ていなかったが、社会貢献のため、積極的に地域との交流の場を設けていく。

自己点検並びに学校関係者評価結果を真摯に受け止め、改善を図ることが求められる事項について整理するとともに、全教職員で認識を共有し、今後の学園の運営を充実・強化していくための指針としたい。

7. 次回開催日程

全日本鍼灸学会の開催日程も考慮しながら、次年度については5月～7月の間で日程調整を行う。